

～学校教育目標～

一人一人の子どもに、平和な未来を築くための「生きる力（学ぶ力）」を育てる教育を実現する

いたわり はげます 平和な学校

# しroyama 大すき

長崎市立城山小学校 学校だより

第21号 令和4年11月1日(火)

校長 武末 弘之

本校ホームページ <https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>

## 西部ブロック「特別支援学級・通級指導教室交歓会」

先週27日(木)に、長崎市民会館体育館で市内西部ブロック12校の小学校から集まった子どもたちが、様々な種目にチャレンジして交流を深めました。

本校からも16名の子どもたちが参加し、どの子ども最後までがんばることができました。

きちんと並んで開会式・閉会式に参加する、競技の途中であきらめることなくやり遂げる、友達をしっかりと応援するなど、大きな成長を感じる姿を見ることができました。

保護者の皆様には、送迎や励まし、応援などお世話になりました。ありがとうございました。



### 【職員の退職のお知らせ】

「さくら学級」の担任で、育児休業中だった本田千恵教諭が、10月31日をもって一身上の都合により退職することになりましたのでお知らせいたします。

本田先生は、本校に2年7か月お勤めいただいたこととなります。ありがとうございました。城山小学校みんなで、今後の御健勝と御活躍を祈りたいと思います。

### 「危機に直面する子どもたち」 ～今こそ私たちの出番～ (その5-①)

#### 5 「愛着」を求め続ける子どもたち

##### (1) 「愛着」とは？

子どもは、触れて欲しい、抱っこして欲しい、愛して欲しいという欲求を持っている。これらの欲求に愛情ある抱っこで応えてあげると、子どもは安心し、自分が価値ある大切な存在だと思えるようになり、抱っこしてくれる親を信頼できるようになる。それは成長後、心の根っこにある安心感・自分への確かな存在感や重要感、他者への信頼感へと育っていく。

小さい頃に愛情ある抱っこをたくさん経験した子どもは、成長してからも情緒が安定し、豊かな人間関係を築くことができる。

① エリクソン…子どもは大人からありのままに受け入れられると、人を好きになり進んで他者と関わりをもつようになる。自発的な行動を周囲が受容すれば、さらに他者への信頼感は深まり、家庭・学校などで「信頼と安定と自発性」が連続的に展開され、積極的に成長していく。

② 岡田尊司「愛着障害」より…人間が幸福に生きていくうえで最も大切なものは、安定した「愛着」である。愛着とは、人と人との絆を結ぶ能力であり、人格の土台を形づくっている。安定した愛着が形成された人は、対人関係においても、仕事においても、高い適応力を示す。人とうまくやっていくだけでなく、深い信頼関係を築き、不要な衝突や孤立を避けることができる。困ったときは助けを求め、自分の身を上手に守ることでストレスや鬱になることも少ない。人に受け入れられ、人を受け入れて成功のチャンスをつかむ。

##### (2) 信頼できる大人に出会ってさえいれば

① 自立支援施設の子どもの言葉…相手が傷つく言葉をわざわざ選んで浴びせ、私のことで思い悩み泣いている先生は何人もいた。私は背を向けてばかりだった。精神的に弱い私は、崩れると何度も何度も左手を切った。6年間、同じ道を行ったり来たりして涙と血を流し続けてきた。最近やっと自傷行為をしなくなってきた。それは「夢」ができたからだ。本気でなりたいものが見つかったからだ。それは、養護施設の先生である。これまでしてきたことが馬鹿らしくなり、過去の過ちを振り返り、多くの人の愛情に気づけなかった後悔と申し訳なさで胸がいっぱいである。

② 自立支援施設長の言葉…大人たちに裏切られて、信じるものを失った子どもたちは、しっかり向き合って立ち直らせてくれる献身的な職員に出会って、もう一度大人を信じて生きていこうとします。年齢を御破算にして、本当に理解できるところからやり直していくのです。

裏面へ続く→

